

# I. 前橋市公共下水道事業計画書(変更)

公共下水道管理者 前橋市公営企業管理者

工事の着手年月日 昭和 27 年 9 月 12 日

工事の完成予定年月日 令和 8 年 3 月 31 日

表 1-1

予 定 処 理 区 域 調 書				
処理区域の面積		1,171.6 ヘクタール	処理区域内の地名	前 橋 市
処理区 の名称	面 積 (ヘクタール)	処理区域内の地名		摘 要
前橋処理区	1,171.6	大手町一丁目, 大手町二丁目, 大手町三丁目, 紅雲町一丁目, 紅雲町二丁目, 本町一丁目, 本町二丁目, 本町三丁目, 表町一丁目, 表町二丁目, 南町一丁目, 南町二丁目, 南町三丁目, 南町四丁目, 岩神町一丁目, 岩神町二丁目, 岩神町三丁目, 岩神町四丁目, 昭和町一丁目, 昭和町二丁目, 昭和町三丁目, 平和町一丁目, 平和町二丁目, 国領町一丁目, 国領町二丁目, 住吉町一丁目, 住吉町二丁目, 朝日町一丁目, 朝日町二丁目, 朝日町三丁目, 朝日町四丁目, 千代田町一丁目, 千代田町二丁目, 千代田町三丁目, 千代田町四丁目, 千代田町五丁目, 三河町一丁目, 三河町二丁目, 城東町一丁目, 城東町二丁目, 城東町三丁目, 城東町四丁目, 日吉町一丁目, 若宮町一丁目, 若宮町二丁目, 若宮町三丁目, 若宮町四丁目, 文京町一丁目, 文京町二丁目, 文京町三丁目, 文京町四丁目, 朝倉町一丁目, 朝倉町二丁目, 朝倉町三丁目の各全部 朝倉町四丁目, 日吉町二丁目, 日吉町三丁目, 日吉町四丁目, 城東町五丁目, 西片貝町五丁目 上小出町一丁目, 下小出町一丁目, 下小出町二丁目 , 天川町, 天川大島町, 六供町, 六供町一丁目, 天川原町一丁目, 天川原町二丁目の各一部 天川原町一丁目, 天川原町二丁目, 六供町一丁目, 六供町二丁目, 六供町三丁目, 六供町四丁目, 六供 町五丁目の各全部  (南町一丁目、南町二丁目の一部)  (三河町一丁目の一部)  (文京町四丁目の一部)  (天川大島町の一部)		合流式 1,019.6 ヘクタール  (南町分流化区域) (24.0 ヘクタール)  (三河町分流化区域) (12.0 ヘクタール)  (文京町分流化区域) (15.0 ヘクタール)  (天川大島町分流化区域) (17.6 ヘクタール)

\* 処理区域内の地名の ( ) は、地域内の摘要欄区域の地名

表 1-2

予 定 処 理 区 域 調 書				
処理区域の面積		1, 171. 6 ヘクタール	処理区域内の地名	前 橋 市
処理区 の名称	面 積 (ヘクタール)	処 理 区 域 内 の 地 名		摘 要
前橋処理区	1, 171. 6	<p>六供町四丁目の全部 天川町, 天川原町一丁目, 天川原町二丁目, 六供町一丁目, 六供町, の各一部</p> <p>(六供町四丁目, 六供町五丁目の全部 天川町, 天川原町一丁目, 天川原町二丁目, 朝倉町一丁目, 朝倉町二丁目, 六供町一丁目, 六供町二丁目, 六供町三丁目の各一部)</p>		分流式・汚水 (152ヘクタール) (南部処理分区)

\* 処理区域内の地名の ( ) は、地域内の摘要欄区域の地名

表 1-3

予 定 排 水 区 域 調 書			
排水区域の面積	220.6	ヘクタール	排水区域内の地名
			前 橋 市
排水区 の 名 称	面 積 (ヘクタール)	排 水 区 域 内 の 地 名	摘 要
六 供 第 一 排 水 区	101.0	六 供 町 四 丁 目 の 全 部 天 川 町, 天 川 原 町 一 丁 目, 天 川 原 町 二 丁 目, 六 供 町 一 丁 目, 六 供 町 の 各 一 部 六 供 町 二 丁 目, 朝 倉 町 一 丁 目, 朝 倉 町 二 丁 目 の 各 一 部	前 橋 処 理 区 (南 部 処 理 分 区)
六 供 第 二 排 水 区	51.0	六 供 町 の 一 部 六 供 町 三 丁 目 の 一 部 六 供 町 五 丁 目 の 全 部	前 橋 処 理 区 (南 部 処 理 分 区)
南 町 排 水 区	24.0	南 町 一 丁 目、南 町 二 丁 目 の 各 一 部	(南 町 分 流 化 区 域)
三 河 町 排 水 区	12.0	三 河 町 一 丁 目 の 一 部	(三 河 町 分 流 化 区 域)
文 京 町 排 水 区	15.0	文 京 町 四 丁 目 の 一 部	(文 京 町 分 流 化 区 域)
天 川 大 島 町 排 水 区	17.6	天 川 大 島 町 の 一 部	(天 川 大 島 町 分 流 化 区 域)

表 3-1

吐 口 調 書							
処理区 の名称	吐 口 の 種 類	吐口の番号 又は名称	吐口の位置又は名称	計画放流量	放 流 先 の 名 称	放流先 の水位	摘 要
前 橋 処 理 区	雨水吐室	1	紅雲町一丁目 24-1 先	1.869 1.890m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +98.03	第一排水区
	雨水吐室	2	大手町一丁目 12-3 先	0.509 0.503m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +98.38	第一排水区 スクリーン
	雨水吐室	3	南町一丁目 1 先	1.154 1.138m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +96.83	第二排水区 スクリーン
	雨水吐室	5	南町二丁目 18-5 先	0.799 0.651m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +89.04	第二排水区 スクリーン
	処理施設	9-1	前橋水質浄化センター	0.716 0.601m <sup>3</sup> /秒 2.792 2.217m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +92.48	(0.601m <sup>3</sup> /秒)は 晴天時処理水 (2.217m <sup>3</sup> /秒)は 雨天時処理水
	雨水吐室	9-2	六供町 1491-1 先 六供町三丁目 1-1 先	2.116 2.227m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +93.02	第六排水区 スクリーン
	雨水吐室	10	千代田町三丁目 11-6 先	1.256 1.250m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +103.49	第三排水区 スクリーン
	雨水吐室	11	昭和町三丁目 26-6 先	0.390 0.387m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +110.20	第三排水区 フェンス
	雨水吐室	12	昭和町三丁目 18-16 先	0.826 0.822m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +110.80	第三排水区 スクリーン
	雨水吐室	14	岩神町一丁目 13 先	1.447 1.439m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +102.00	第三排水区 スクリーン
	雨水吐室	16	岩神町三丁目 3-2 先	0.218 0.217m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +110.50	第三排水区 スクリーン

表 3-2

吐 口 調 書							
処理区 の名称	吐 口 の 種 類	吐口の番号 又は名称	吐口の位置又は名称	計画放流量	放 流 先 の 名 称	放流先 の水位	摘 要
前 橋 処 理 区	ポンプ 施設	17	天川ポンプ場	1.516 1.504m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +90.12	第三排水区 スクリーン
	雨水吐室	18	朝日町四丁目 25-7 先	4.127 4.314m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +94.48	第四排水区 スクリーン
	雨水吐室	19	天川町 1627 番地先	1.075 1.070m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +88.58	第四排水区 スクリーン
	雨水吐室	20	千代田町五丁目 18-1 先	0.000m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +102.93	第四排水区 フェンス
	雨水吐室	21	朝日町四丁目 7-16 先	1.282 1.385m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +93.75	第四排水区 フェンス
	雨水吐室	23	住吉町二丁目 3-29 先	3.098 3.089m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +103.12	第四排水区 フェンス
	雨水吐室	24	城東町四丁目 30-1 先	1.020 0.845m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +98.79	第五排水区 スクリーン
	雨水吐室	25	城東町四丁目 15-1 先	0.190m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +100.34	第五排水区 スクリーン
	雨水吐室	26	三俣第一公園下先	0.852 0.846m <sup>3</sup> /秒	桃ノ木 川	TP +108.90	第五排水区 スクリーン
	雨水吐室	28	文京町三丁目 9-1 先	0.550 0.548m <sup>3</sup> /秒	端気川	TP +97.94	第六排水区 スクリーン
雨水吐室	31	文京町三丁目 22-15 先	1.714 1.709m <sup>3</sup> /秒	端気川	TP +95.90	第六排水区 スクリーン	

表 3-3

吐 口 調 書							
処理区 の名称	吐 口 の 種 類	吐口の番号 又は名称	吐口の位置又は名称	計画放流量	放 流 先 の 名 称	放流先 の水位	摘 要
前 橋 処 理 区	雨水吐室	32	文京町三丁目 23-16 先	0.838 0.834m <sup>3</sup> /秒	端気川	TP +95.70	第六排水区 フェンス
	雨水吐室	33	朝倉町四丁目 6 先	0.096m <sup>3</sup> /秒	広瀬川	TP +88.95	第四排水区 スクリーン
	雨水吐室	34	大手町一丁目 1-2 先	7.468m <sup>3</sup> /秒	柳原放 水路	TP +100.00	千代田町 排水分区

表 3-4

吐 口 調 書 ( 分 流 式 雨 水 渠 )								
排 水 区 の 名 称	吐 口 の 種 類	吐 口 の 番 号	名 称	吐 口 の 位 置	計画放流量	放 流 先 の 名 称	放流先 の水位	摘 要
六供第一 排水区	雨水吐	9-2	六供第一 雨水幹線	六供町1491-1 先 六供町三丁目 1-1 先	17.997m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +93.02	
六供第二 排水区	雨水吐	—	六供第二 雨水幹線	六供町1056-1 先 六供町三丁目 1-29 先	7.069m <sup>3</sup> /秒	利根川	TP +90.79	

表 4-1

管 渠 調 書				
排水区の名称	主要な管渠の 内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	点検箇所 の数	摘 要
第一排水区	φ 250～φ 1200	1,030	1	方法：マンホールからの管内 目視、清掃 頻度：5年に1回
第二排水区	φ 300～φ 1650	4,830	0	〃
第三排水区	φ 300～φ 1650	3,650	3	〃
第四排水区	φ 250～φ 1500	12,440	5	〃
第五排水区	φ 300～φ 1800	6,540	3	〃
第六排水区	φ 300～φ 2200	5,710	3	〃
	B1500×1500～ B1800×1800	810	—	
南部処理分区	φ 200～φ 900	2,600	1	方法：マンホールからの管内 目視 頻度：5年に1回
合 計		37,610	16	

\*点検箇所は、圧送管の放流先が幹線人孔にあたる箇所及び伏せ越し箇所が幹線人孔の箇所とした。

表 4-2

管 渠 調 書 (分 流 式 雨 水 渠)				
排水区の名称	主要な管渠の 内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	点検箇所 の数	摘 要
六供第一排水区	B1000×1000～ B3500×2500	2,220	0	
六供第二排水区	B1200×1000～ B1300×1000	200	0	
合 計		2,420	0	

表 5-1

処 理 施 設 調 書								
終末処理場等の名称	位 置	敷地面積 (単位： ヘクタール)	計画放 流水質	処理方法	処理能力			摘 要
					晴天日最大 (立方メートル)	雨天日最大 (立方メートル)	計画処理 人口 (人)	
前橋水質 浄化センター	六供町 1,331番地 六供町 三丁目 1番地9	4.91 7.15	BOD 15mg/ℓ	標準活性 汚泥法 凝集剤添加	59,280 51,930	231,390 191,571	58,460 58,161	<p>全体処理能力 (日最大) 63,400m<sup>3</sup>/日</p> <p>流入水質 BOD175 BOD180 mg/ℓ SS 170 SS 175 mg/ℓ</p> <p>○前橋し尿 処理施設の 機能を下水道 汚泥処理 施設と統合 する。 ○前橋水質 浄化センター 管理棟改築 のため施設 用地の拡大 及び既存 構造物撤去 予定。</p>

表 5-2

処理施設の敷地内の主要な施設						
処理施設の名称	主要な施設の名称	個数	構造	能力	摘要	
前橋水質 浄化センター	沈砂池	6 池	長方形平行流池 巾2.0m×長11.0m ×水深(0.4m~0.76m)	40 滞留時間 42秒		
		3 池	長方形平行流池 巾2.0m×長11.0m× 水深(0.4m~0.8m)	104 滞留時間 152秒		
		1 池	長方形平行流池 巾2.0m×長12.0m ×水深0.3m	59 滞留時間 73秒		
	汚水ポンプ	2 台	渦巻き型電動	口 径 360mm	揚水量15m <sup>3</sup> /分	
		4 台	渦巻き型電動	口 径 400mm	揚水量22.5m <sup>3</sup> /分	
		2 台	立軸斜流型	口 径 600mm	揚水量47m <sup>3</sup> /分	
		6 台	立軸斜流型	口 径 400mm	揚水量16m <sup>3</sup> /分	
	ポンプ室	1式	ポンプ室、送風機室、水質試験室を収容			

表 5-3

処 理 施 設 の 敷 地 内 の 主 要 な 施 設					
処 理 施 設 の 名 称	主 要 な 施 設 の 名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
前橋水質 浄化センター	最初沈殿池	5 池	長方形平行流式沈殿池 巾10.0m×長18.0× 水深3.2m	沈殿時間 1.7時間(晴天時)  沈殿時間 0.4時間(雨天時)  水面積負荷 44.4m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日(晴天時) <b>191</b> 水面積負荷 179m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日(雨天時)	
		1 池	長方形平行流式沈殿池 巾9.0m×長22.0×水深3.3m (4.5×2)	<b>2.2</b> 沈殿時間 2.7時間(分流) <b>37</b> 水面積負荷 29m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日	
		2 池	長方形平行流式沈殿池 巾9.0m×長22.0×水深3.3m	<b>2.6</b> 沈殿時間 1.3時間(雨天時) <b>30</b> 水面積負荷 16m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日(晴天時) <b>131</b> 水面積負荷 62m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日(雨天時)	
	エアレーションタンク 標準活性汚泥法	4 槽	全断面流入方式4系列 巾10.0m×長48.0×水深5.0m	エアレーション時間 4.6時間  BOD 負荷0.26 kgbod/kgss	
		2 池	全断面流入方式 巾14.3m×長36.0×水深6.0m	<b>7.7</b> エアレーション時間 12.4時間 <b>0.18</b> BOD 負荷0.12 gbod/kgss	

表 5-4

処 理 施 設 の 敷 地 内 の 主 要 な 施 設					
処 理 施 設 の 名 称	主 要 な 施 設 の 名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
前橋水質 浄化センター	ブローア	2 台	単段ターボブローア	所要空気量 80m <sup>3</sup> /分	
		3 台	多段ターボブローア	所要空気量 67 41m <sup>3</sup> /分	
	最終沈殿池	4 池	長方形平行流式沈殿池 巾10.0m×長28.0×水深3.8m	沈殿時間 2.0時間 水面積負荷 36m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日	
		2 池	長方形平行流式沈殿池 巾(4.5×3)m×長35.0×水深 2.7m	沈殿時間 5.1時間 水面積負荷 21 13m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /日	
	汚泥ポンプ	3 台	渦巻型電動 電動機直結無閉塞型	口径 200mm	揚水量 4.6m <sup>3</sup> /分
3 台		横軸無閉塞型	口径 150mm	揚水量 1.5m <sup>3</sup> /分	
		5 台	渦巻ポンプ	口径 100mm	揚水量 0.5m <sup>3</sup> /分
		3 台	横軸無閉塞型 渦巻ポンプ	口径 150mm	揚水量 2.5m <sup>3</sup> /分
塩素混和池	2 池	2 池	矩形迂回流型 巾2.0m×長16.5×5列	滞留時間 12分(晴天時) 滞留時間 3分(雨天時)	
		1 池	矩形迂回流型 巾2.0m×長20.0×水深2.5m ×4列	滞留時間 30 48分(晴天時) 滞留時間 10 19分(雨天時)	

表 5-5

処 理 施 設 の 敷 地 内 の 主 要 な 施 設					
処 理 施 設 の 名 称	主 要 な 施 設 の 名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
前橋水質 浄化センター	塩素滅菌機	3 台	湿式真空型	12 塩素注入量 13kg/時  (7kg/時×3 台)	
	汚泥濃縮槽	3 槽	円形放射流式 内径8.0m 水深3.0m	122 固形物負荷 59kg/m <sup>2</sup> /日 17 滞留時間 15 時間	
		1 槽	円形放射流式 内径10.0m 水深2.0m	58 固形物負荷 112kg/m <sup>2</sup> /日 12 滞留時間 18 時間	
	汚泥脱水設備	4 基	遠心分離機	脱水能力 15m <sup>3</sup> /時・基	
	汚泥炭化設備	2 基	外熱スクリュウ方式	49.5m <sup>3</sup> /日	下水41.8 t 外部7.7 t
	管理棟	1 式	管理制御室 事務室 水質試験室電気室等		
	電気設備	1 式	高圧受変電設備、配電設備 自家発電設備 計装監 視制御設備		
凝集剤貯留 タンク	2 基	FRP 製立形円筒槽	30m <sup>3</sup> ×2		

表5-6

処 理 施 設 の 敷 地 内 の 主 要 な 施 設					
処 理 施 設 の 名 称	主 要 な 施 設 の 名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
前橋水質 浄化センター	凝集剤注入 ポンプ	5 台	ダイヤフラムポンプ φ25	1 台注入量 1.30ℓ/分	
	苛性ソーダ 貯留タンク	2 基	FRP 製立形円筒槽	4 m <sup>3</sup> ×2	
	雨天時貯留 沈殿池	1 池	巾 29.5m×長 16.0m×深 9m	貯留能力 4,000m <sup>3</sup>  水面積負荷 26/m <sup>2</sup> /日	
		1 池	塩素混和池 巾 1.5m×長 60.0m×深 4.7m	滞留時間 12 18分 (雨天時)	

表 6-1

## ポ ン プ 施 設 調 査 書

ポンプ施設の名 称	処理区 の名称	ポンプ設置の 位 置	敷地面積 (単位:㎡)	1 分間の揚水量 (単位 ; 立方メートル)		摘 要
				晴天時最大	雨天時最大	
天川ポンプ場	前橋処理区	天川町1677-2	28	31.74 26.16	99.24	第三, 四, 五, 六排水区
中川ポンプ場	前橋処理区	三河町二丁目 20-6	9	4.57 3.77	18.00	第四排水区
岩神ポンプ場	前橋処理区	岩神町一丁目 13	4	3.18 2.62	26.76	第三排水区
大手ポンプ場	前橋処理区	大手町一丁目 12	2	1.31 1.08	14.82	第一排水区
天川大島第一 中継ポンプ場	前橋処理区	天川大島町547-8	2	0.61 0.74	18.48	第四排水区
南部汚水中継 ポンプ場	前橋処理区	天川町31-6	5	4.00 3.20	—	南部処理分区

表 6-2

ポンプ施設の敷地内の主要な施設

ポンプ施設の名 称	主要な施設 の 名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
天川ポンプ場	ポンプ	2 台	横型斜流	口径 800mm	雨水用
		3 台	直結立軸渦巻	口径 450mm	汚水用
	沈砂池	3 池	鉄筋コンクリート造	巾 2.3m 長 16.0m	
	ポンプ室	1 棟	鉄筋コンクリート造	311 m <sup>2</sup>	
中川ポンプ場	ポンプ	4 台	立軸斜流型	口径 250mm	内1台予備
	沈砂池	2 池	鉄筋コンクリート造	巾 0.6m 長 6.0m	
	ポンプ室	1 棟	鉄筋コンクリート造	171 m <sup>2</sup>	
岩神ポンプ場	ポンプ	3 台	水中汚水用ポンプ	口径 200mm	
	沈砂池	2 池	鉄筋コンクリート造	巾 0.8m 長 3.1m	晴天時0.30m <sup>3</sup> /秒 雨天時0.24m <sup>3</sup> /秒
	操作室	1 棟	コンクリートブロック造	31.07 m <sup>2</sup>	
大手ポンプ場	ポンプ	2 台	水中汚水用ポンプ	口径150mm 1台 口径200mm 1台	
	沈砂池	1 池	鉄筋コンクリート造	巾1.0m 長3.0m	
	沈砂池棟	1 棟	鉄筋コンクリート造	11.7 m <sup>2</sup>	
天川大島第一 中継ポンプ場	ポンプ	4 台	水中汚水用ポンプ	口径 150mm 2 台 口径 300mm 2 台	
	沈砂池	3 池	鉄筋コンクリート造	巾 1.35m 長 8.7m	
	管理棟	1 棟	鉄筋コンクリート造	690.0 m <sup>2</sup>	

表 6-3

## ポンプ施設の敷地内の主要な施設

ポンプ施設の名 称	主要な施設の名 称	個 数	構 造	能 力	摘 要
南部汚水中継ポンプ場	ポンプ	4 台	水中汚水用ポンプ	口径150mm	内予備 1 台
	沈砂池	2 池	矩形平行流式	巾1.0m×長6.7m	内予備 1 台
	電気設備	1 式	高圧受変電設備, 配電設備等		
	ポンプ室 上屋等	1 式	鉄筋コンクリート造		
	機械棟	1 式	発電機室, 脱臭機室		

表 7

## 貯留施設調書

処理区の名 称	貯留施設の名 称	貯留施設の位置	貯留施設能力 (単位 ; 立方メートル)	摘 要
前橋処理区	昭和町滞水池	昭和町三丁目	550	合流改善対策施設 (未処理放流回数減)
前橋処理区	岩神町滞水池	岩神町一丁目	570	〃
前橋処理区	城東町滞水池	城東町町四丁目	2,700	〃
前橋処理区	天川町滞水池	天川町	1,800	〃
前橋処理区	南町貯留管	南町一丁目、 二丁目	1,100	〃

一、毎会計年度の工事費の予定額及びその予定財源

(一) 事業総括表

表IV-1 事業費 (単位：百万円)

種別	既事業費	変更事業費	摘要
管渠築造費	30,900.7	30,930.6	
ポンプ場築造費	6,014.6	6,021.6	
下水道処理場築造費	17,299.3	17,311.3	
その他	—	—	
計	54,214.6	54,263.5	

事業計画年数は昭和27年度から令和7年度までの74年間工期とする。

表IV-2 変更事業費の内容事業費 (単位：百万円)

種別	令和3年 までの事業費	令和4年 以降の事業費	計
管渠築造費	28,270.9	2,659.7	30,930.6
ポンプ場築造費	5,630.3	391.3	6,021.6
下水道処理場築造費	16,025.1	1,286.2	17,311.3
その他	—	—	—
合計	49,926.3	4,337.2	54,263.5

(二) 下水道事業に関する財源計画書

イ. 経費の部

(単位：百万円)

年度	建設改良費						起債元利償還費	維持管理費	その他	計	合計
	管渠	ホップ・場処	理場	計	内地費	費					
昭和27年度～令和3年度まで	28,270.9	5,630.3	16,025.1	49,926.3	0.0	0.0	73,162.3	0.0	92,420.9	142,347.2	
令和4年度	604.9	0.0	77.1	682.0	0.0	0.0	1,113.9	0.0	1,909.7	2,591.7	
	634.8	7.0	89.1	730.9	0.0	0.0	985.2	0.0	1,776.5	2,507.4	
令和5年度	619.8	228.3	459.6	1,307.7	0.0	0.0	1,038.0	0.0	1,843.2	3,150.9	
令和6年度	712.1	70.0	231.5	1,013.6	0.0	0.0	962.4	0.0	1,799.1	2,812.7	
令和7年度	693.0	86.0	506.0	1,285.0	0.0	0.0	949.3	0.0	1,849.8	3,134.8	
小計	2,629.8	384.3	1,274.2	4,288.3	0.0	0.0	4,063.6	0.0	7,401.8	11,690.1	
	2,659.7	391.3	1,286.2	4,337.2	0.0	0.0	3,934.9	0.0	7,268.6	11,605.8	
合計	30,900.7	6,014.6	17,299.3	54,214.6	0.0	0.0	77,225.9	0.0	99,822.7	154,037.3	
	30,930.6	6,021.6	17,311.3	54,263.5	0.0	0.0	77,097.2	0.0	99,689.5	153,953.0	

ロ. 財 源 の 部

(単位：百万円)

年 度	建設改良費						維持管理費及び起債元利償還費						合計
	国 費	起 債	他 債	会 計 受 益 担 者 金	そ の 他	計	下 水 道 使 用 料	他 会 入	計 金	そ の 他	計		
昭和27年度～ 令和3年度まで	17,694.7	24,909.2		5,690.5	1,632.0	0.0	49,926.4	52,022.6	40,398.2	0.0	92,420.8	142,347.2	
令和4年度	304.0	343.8		0.0	34.2	0.0	682.0	947.1	962.6	0.0	1,909.7	2,591.7	
	321.7	372.7		0.0	36.5	0.0	730.9	940.0	836.5	0.0	1,776.5	2,507.4	
令和5年度	339.4	902.8		0.0	65.5	0.0	1,307.7	942.9	900.3	0.0	1,843.2	3,150.9	
令和6年度	425.1	537.8		0.0	50.7	0.0	1,013.6	955.0	844.1	0.0	1,799.1	2,812.7	
令和7年度	567.3	653.4		0.0	64.3	0.0	1,285.0	955.0	894.8	0.0	1,849.8	3,134.8	
小計	1,635.8	2,437.8		0.0	214.7	0.0	4,288.3	3,800.0	3,601.8	0.0	7,401.8	11,690.1	
	1,653.5	2,466.7		0.0	217.0	0.0	4,337.2	3,792.9	3,475.7	0.0	7,268.6	11,605.8	
合計	19,330.5	27,347.0		5,690.5	1,846.7	0.0	54,214.7	55,822.6	44,000.0	0.0	99,822.6	154,037.3	
	19,348.2	27,375.9		5,690.5	1,849.0	0.0	54,263.6	55,815.5	43,873.9	0.0	99,689.4	153,953.0	
下水道使用料*関連事項 継続率：99%（令和4年度：初年度）→ 99%（令和7年度：最終年度） 講じる対策： 本事業計画は、ほぼ概成であり下水道接続は良好であるため特には行っていない。 有収率：－%（令和4年度：初年度）→ －%（令和7年度：最終年度） 講じる対策： 合流式下水道であるため、管渠や処理施設の負荷を抑える観点からも不明水対策や管渠の維持管理を行う。 その他の講じる対策： 下水道事業は公営企業会計としており、使用料や処理施設の維持管理費等の透明性を図り住民に下水道事業への関心と協力を得る事の啓蒙を推進する。													

(三) 施設の設置に関する方針

主要な施設 (事業計画に基づき今後実施する予定の事業に関するものを記載)	整備水準				事業の重点化・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考	
	指標等	現在 (令和4年度末)	中期目標 (令和9年度末)	長期目標				
汚水処理	下水道処理人口普及率	71.8%	73.6%	79.4%	アクションプランに基づき、10年概成を目標に事業計画区域内の整備を進める。	管渠整備事業(流域関連県央処理区)	—	
浸水対策	整備目標 50.0mm/h (一般地区)	98.6% (1,155.4ha)	98.6% (1,155.4ha)	100% (1,171.6ha)	前橋市の全庁的組織(前橋市雨水対策協議会)による雨水対策検討を進める。	—	—	
耐水化	水害時における機能確保	処理場： 揚水機能確保(管理棟・ポンプ室)	—	—	—	1/200の洪水浸水想定区域外であるため中高度頻度において浸水しないことを確認		
		沈殿池機能確保(水処理棟)	—	—	—			
		汚泥処理機能確保(汚泥処理棟)	—	—	—			
		ポンプ場： 揚水機能確保6箇所(汚水)	0% (0)	0% (0)	100% (6)	5年程度で管理ポンプ棟の揚水機能を確認する。	「耐水化計画書」令和3年対象施設	
耐震化	災害時における機能確保	耐震化率 重要な管渠	98.7% (379.5km)	99.5% (382.3km)	100% (384.4km)	総合地震対策計画に基づき、施設の耐震化を進める。	総合地震対策計画	耐震化率(管渠)については、前橋市全体のものとする。
		耐震化率 (ポンプ場) 対象6施設	16% (事業計画調書箇所)	16% (事業計画調書箇所)	100% (事業計画調書箇所)			
		下水処理場	0%	0%	100%	し尿処理施設の共同化計画、PPP/PFIを検討する。	改築計画による更新予定	R7年～R31年工期予定

主要な施設 (事業計画に基づき今後実施する予定の事業に関するものを記載)	整備水準				事業の重点化 ・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考
	指標等	現在 (令和4年度末)	中期目標 (令和9年度末)	長期目標			
高度処理	—	—	—	—	—	—	計画放流水質を満たすため施設なし
合流式下水道の改善	合流式下水道改善率	100%	100%	100%	平成26年度終了		H27年度事後評価実施済
汚泥の再利用	汚泥炭化率	100.0%	100.0%	100.0%	汚泥炭化による再利用		代替燃料として売却
その他 水質浄化センター更新事業	なし	—	—	—	—	処理施設更新事業に関し、PPP/PFI手法の検討を行い維持管理、施工事業の円滑化を図る	

#### (四) 施設の機能の維持に関する方針

##### a) 主要な施設に係る主な措置

##### i) 劣化・損傷を把握するための点検・調査の計画

主要な施設	点検・調査の頻度
管渠施設	ストックマネジメント計画にもとずき、施設の重要度に応じて、概ね5年に1度点検を実施。また調査は、維持管理計画に基づき50年経過管渠からテレビカメラ調査を行う。
汚水・雨水ポンプ施設	汚水ポンプ設備は、概ね7年～15年をめどに点検・調査を行い、雨水ポンプ設備は、7年～20年をめどに点検・調査を行う。
水処理施設 (送風機本体)	概ね7年～10年をめどに点検・調査を行う。
汚泥処理施設 (汚泥脱水機)	概ね7年～10年をめどに点検・調査を行う。

ii) 診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

主要な施設	修繕・改築の判断基準
管渠施設	健全度 2 以下で改築を実施。
汚水・雨水ポンプ施設	健全度 2 以下で改築を実施。
水処理施設 (送風機本体)	健全度 2 以下で改築を実施。
汚泥処理施設	健全度 2 以下で改築を実施。

iii) 改築事業の概要 (令和 4 年度～令和 7 年度)

主要な施設	改築事業の概要
管渠施設	延長：概ね 8km
汚水・雨水ポンプ施設	監視制御設備 スクリーン設備 等
水処理施設 (送風機本体)	送風機 70m <sup>3</sup> /分 2 台
汚泥処理施設	汚泥脱水機 15m <sup>3</sup> /時 1 台
管理棟	R7 年度建設着手 概ね 4 年工期 1 棟

b) 施設の長期的な改築の需要見通し

改築の需要見通し (年当たりの概ねの事業規模)	試算年次	試算の前提条件
年当たり概ね 24.8 億円	100 年	管渠施設：目標耐用年数 75 年 機械施設：標準耐用年数の 1.5 倍 電気設備：標準耐用年数の 1～2 倍